

平成 28 年度

病虫害発生予察情報 第2号

4 月月報

北海道病虫害防除所 平成 28 年5月 17 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・並雨（少雪）・寡照』中旬は雨や雪の日多く、大荒れの日も－

この期間の天気は、上旬と下旬は短い周期で変わったが、中旬は気圧の谷や低気圧の影響で雨や雪の降る日が多かった。気温は上旬は平年よりかなり高く、月平均気温も高かった。降水量は中旬は平年より多く、月降水量は平年並だった。日照時間は上旬と下旬は平年より多かったが、中旬はかなり少なく、月間日照時間も少なかった。月降雪量は平年よりかなり少なかった。

上旬：1日は気圧の谷の影響ではじめ雪や雨の降った所があったが、高気圧の張り出しの中で日本海側や太平洋側西部で晴れた。2日は高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側では晴れた。3日は気圧の谷の影響で広い範囲で雨や雪が降った。日降水量は浦河町中杵臼で40.0mmなど。4日は高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側を中心に広い範囲で晴れた。5日は高気圧の張り出しの中ではじめ晴れたが、気圧の谷が通過して日本海側を中心に雨や雪が降った。6日は気圧の谷の影響ではじめ雨の降った所があった他は、高気圧に覆われて全道的に晴れた。7日は高気圧の張り出しの中ではじめオホーツク海側を中心に晴れた所が多かったが、低気圧を含む気圧の谷が接近して太平洋側を中心に広い範囲で雨が降った。8日は前線が通過して全道的に雨が降った。9日は低気圧を含む気圧の谷の影響で雨や雪の降った所があったが、太平洋側を中心に晴れた所も多かった。10日は気圧の谷の影響で雪の降った所があったが、次第に高気圧が張り出して広い範囲で晴れた。

中旬：11日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側では雪や雨が降ったが、太平洋側西部などでは晴れた。12日は気圧の谷の影響ではじめ雪の降った所があった他は、高気圧の張り出しの中で全道的に晴れた。13日は気圧の谷の影響で雨や雪の降った所が多かった。14～15日は低気圧が通過して広い範囲で雨や雪が降り、15日には猛ふぶきとなった所もあった。日降雪量は15日に羅臼で29cmなど（4月の1位の値を更新）。16日は高気圧の張り出しの中で広い範囲で晴れたが、夜には気圧の谷の影響で雨や雪の降った所があった。17～18日は発達した低気圧が通過して全道的に雨や雪が降り、広尾町では強風被害が発生するなど、大荒れの天気となった所もあった。日降水量は17日にえりも町目黒で61.0mmなど。19日は気圧の谷の影響で雪や雨の降った所があったが、晴れた所もあった。20日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、日本海側では気圧の谷の影響ではじめ雪や雨の降った所があった。

下旬：21～22日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。23日は前線が通過して全道的に雨や雪が降った。24日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、上空の寒気の影響で雨や雪の降った所もあった。25日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、オホーツク海側では冷たく湿った気流の影響で曇った所もあった。26日は低気圧が通過してオホーツク海側を中心に雨の降った所があったが、太平洋側西部などでは晴れた。27日は高気圧に覆われて概ね晴れた。28日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、気圧の谷が接近して太平洋側を中心に雨や雪が降った。29～30日は発達した低気圧の影響で広い範囲で雨や雪が降り、大荒れの天気となった所もあった。日降雪量は30日に羅臼で27cmなど。

気象表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照時間	階級
北海道 22 地点平均	+0.5	高	111	並	93	少
日本海側 10 地点平均	+0.4	並	106	並	97	並
林-ツ海側 4 地点平均	-0.2	並	136	多	86	少
太平洋側 8 地点平均	+1.0	高	105	並	93	少

(注) 階級分布図は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。

各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年～2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。

また、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か低(少)」、「か高(多)」(かーかなり)で表します。

Ⅱ. 病虫害発生概況

A. 秋まき小麦

1. 雪腐病 発生量 少

予察ほにおける根雪始めは、長沼町では平年より遅く、芽室町および訓子府町では早かった。融雪期は、長沼町では平年より早く、芽室町では平年並、訓子府町ではやや早かった。積雪期間は、長沼町では平年より短かったが、芽室町および訓子府町では長かった。

主力品種「きたほなみ」における雪腐病の発病度は、長沼町および訓子府町では平年並、芽室町では平年より高かった。病原菌種別で見ると、長沼町では雪腐褐色小粒菌核病、芽室町では紅色雪腐病、訓子府町では雪腐黒色小粒菌核病が主体だった。

一般ほにおける発生面積率、被害面積率はともに平年より低かった。ただし、後志地方の一部では被害面積率が高まった。病原菌種別では、雪腐褐色小粒菌核病の割合が高い地域が多かったものの、石狩、胆振、オホーツク、十勝地方では紅色雪腐病の割合が高く、上川地方では褐色雪腐病の割合が高かった。

予察ほにおける積雪状況

地点	根雪始		融雪期		積雪期間(日)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	12月17日	12月7日	3月18日	4月4日	92	119
芽室町	11月24日	12月9日	4月6日	4月6日	134	118
訓子府町	11月22日	12月7日	3月30日	4月2日	129	117

予察ほにおける雪腐病の発生状況

地点	品種名	発病度		平年数
		本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	20	20	10
	ホクシン	12	11	10
	きたほなみ	10	11	6
芽室町	チホクコムギ	18	31	10
	ホクシン	19	22	10
	きたほなみ	40	30	7
訓子府町	チホクコムギ	15	41	10
	きたほなみ	24	31	7
	きたもえ	29	30	7

予察ほにおける雪腐病の病原菌種別発生割合（単位：％）

地点	長沼町					
	チホクコムギ		ホクシン		きたほなみ	
菌種	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	0	0	0	0	0
雪腐黒色小粒菌核病	6	4	8	3	7	3
雪腐褐色小粒菌核病	85	59	77	67	61	61
紅色雪腐病	8	5	15	4	33	14
褐色雪腐病	0	32	0	28	0	22

(前ページより続く)

予察ほにおける雪腐病の病原菌種別発生割合 (単位: %)

地点	芽室町					
品種名	チホクコムギ		ホクシン		きたほなみ	
菌種	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	34	0	36	0	14
雪腐黒色小粒菌核病	0	27	29	29	10	30
雪腐褐色小粒菌核病	86	12	37	8	11	9
紅色雪腐病	14	27	34	27	80	47
褐色雪腐病	0	0	0	0	0	0

地点	訓子府町					
品種名	チホクコムギ		きたほなみ		きたもえ	
菌種	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	28	0	25	0	20
雪腐黒色小粒菌核病	95	46	79	47	80	68
雪腐褐色小粒菌核病	1	2	1	0	2	0
紅色雪腐病	4	24	20	27	18	12
褐色雪腐病	0	0	0	0	0	0

一般ほにおける雪腐病の発生状況 (総合振興局・振興局別調査結果)

振興局	作付 面積(ha)	発生面積率(%)		被害面積率(%)		発生ほの病原菌種別発生割合(%)					
		本年	平年	本年	平年	大粒	褐小	黒小	紅色	褐色	その他
空知	16,531	13.0	55.8	0.4	7.8	0	75.8	8.1	3.0	13.2	0
石狩	7,513	25.0	72.9	0.8	13.5	0	17.9	11.6	65.7	4.8	0
後志	1,296	55.8	53.7	1.9	1.7	0	95.3	0	0.5	4.2	0
胆振	1,506	4.8	18.5	0	1.8	0	52.0	0	48.0	0	0
檜山	612	8.4	18.3	0	1.0	0	58.3	12.5	29.2	0	0
上川	10,469	33.0	73.0	1.8	18.0	0	35.9	14.9	10.1	39.1	0
留萌	735	14.3	71.1	0	8.3	0	97.0	0	0	3.0	0
オホーツク	23,105	36.4	36.3	1.9	4.1	0	7.3	22.5	69.0	1.2	0
十勝	45,147	11.6	14.6	0.5	1.5	0.2	1.1	20.4	76.3	0	2.0
全道計	106,914	20.7	35.6	0.9	5.3	0.1	21.5	17.5	52.0	8.4	0.5

注) 大粒: 雪腐大粒菌核病、黒小: 雪腐黒色小粒菌核病、褐小: 雪腐褐色小粒菌核病、紅色: 紅色雪腐病
褐色: 褐色雪腐病、その他: スッポヌケ病

2. 赤さび病 発生期 早 発生量 並

予察ほの赤さび病抵抗性“弱”である「ホクシン」または「きたもえ」における初発日は、すべての地点で平年より早かった。主力品種「きたほなみ」の初発日も全ての地点で平年より早かった。発生量は各地点とも平年並であった。

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品 種 名	初 発 日		病 斑 面 積 率 (％)*		平 年 数
				4 月 6 半 旬		
		本 年	平 年	本 年	平 年	
長沼町	ホクシン	4月14日	4月28日	0.01	0.01	10
	きたほなみ	4月18日	5月3日	0	0.03	6
芽室町	ホクシン	4月22日	5月5日	0.02	0.01	10
	きたほなみ	4月22日	5月10日	0.01	0.01	7
訓子府町	きたもえ	4月25日	5月25日	0	0	10
	きたほなみ	4月27日	5月13日	0	0	7

注) *: 全葉調査の平均値

3. うどんこ病 発生期 やや早 発生量 並

予察ほのうどんこ病抵抗性“弱”である「チホクコムギ」における初発日は、長沼町では平年より早く、芽室町および訓子府町では平年よりやや早かった。発生量は、長沼町では平年に比べやや多く、芽室町および訓子府町では平年並だった。主力品種「きたほなみ」において、長沼町で平年よりも早い初発を認めた。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品 種 名	初 発 日		病斑面積率 (%)*		平年数
				4 月 6 半 旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	4月14日	4月29日	1.75	0.13	10
	きたほなみ	4月13日	5月12日	0.02	0	6
芽室町	チホクコムギ	4月22日	4月26日	0.03	0.01	10
	きたほなみ	未発生	5月10日	0	0	7
訓子府町	チホクコムギ	4月27日	5月2日	0.04	0.09	10
	きたほなみ	5月5日	5月9日	0	0	7

注) *: 全葉調査の平均値

B. あぶらな科野菜

1. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる雄成虫の初誘殺日は、各地とも平年より早かった。誘殺数は、長沼町および芽室町では平年よりやや多く、訓子府町では平年より少なく、北斗市では平年並であった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月4半旬	3	0.1	8	1.1	0	0.0	0	0.0
5半旬	1	1.0	5	3.2	3	0.2	1	0.1
6半旬	3	1.0	0	3.8	0	0.3	0	0.7
5月1半旬	1	2.4	7	15.7	2	0.7	0	6.0
2半旬	16	11.2	38	24.8	1	2.2	0	6.5
初誘殺日	4月15日	4月23日	4月1日	4月24日	4月21日	5月2日	4月21日	5月5日

C. りんご

1. ハダニ類（リンゴハダニ） 越冬卵量 並

予察園の1短果枝当たり越冬卵数は、長沼町（無防除）で0卵（平年：0.2卵）、余市町（慣行防除）で0卵（平年：0卵）と平年並であった。

2. ハマキムシ類（ミダレカクモンハマキ） 越冬卵量 やや多 発生期 やや早

予察園の5年枝1本当たりの越冬卵塊密度は、長沼町（無防除）で0.6卵塊（平年：0卵塊）と平年よりやや多く、余市町A（慣行防除）では認められず、余市町B（慣行防除）では0.01卵塊（平年0.01卵塊）と平年並であった。越冬卵のふ化始は、長沼町で5月6日（平年：5月9日）、余市町B（慣行防除）で5月3日（平年：5月6日）と平年よりやや早かった。